

## 第70回日本小児保健協会学術集会 会頭講演

## 小児医療と保健の近接化を考える

小枝 達也 (日本小児保健協会会長)

## 1. 成育基本法における小児保健の位置づけと保健施策

日本小児保健協会が、活動の方向性を考えるうえで着目すべきことについて記したい。まずは新しい法律の制定である。

「成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律」、いわゆる成育基本法には、小児の保健に関するものとして「孤立の防止及び不安の緩和」、「虐待の予防及び早期発見」、「健康診査又は健康診断の適切な実施」、「心身の健康等に関する相談支援の体制の整備」などが挙げられている。

そして、これらを推進するための基本的な方針改定版(令和5年3月)には、乳幼児期における保健施策として新生児マスキリーニング検査、乳幼児健診の推進など、13項目が挙げられている(図1)。

学童期および思春期における保健施策として子ども等に対する性的な暴力の根絶、や子どもの自殺対策を推進など21項目が挙げられている(図2)。

上記以外にも記録の収集等に関する体制等として、「乳幼児期・学童期の健診・予防接種等の健康等情報の電子化及び標準化(Personal Health Record)を推進する」ことが記載されているし、「効果的な予防対策を導き出し予防可能な子どもの死亡を減らすことを目的としたChild Death Review(CDR)の体制整備」や「子どもの事故予防」に関しても情報の収集体制の必要性が記載されている。

こうした基本方針を見ると医療技術の進歩や浸透に

よって、医療と小児保健分野との結びつきがますます強まっている分野が盛り込まれていることが分かる。具体的には酵素測定法の進歩による新しいマスキリーニング対象疾患の拡充、簡便で精度の高い屈折検査の開発によって可能になった3歳児健診における視覚検査への屈折検査機器の導入、股関節脱臼・臼蓋形成不全の早期発見後の治療体制整備(股関節検診かかりつけ医施設)などが挙げられよう。

このように、治療技術の進歩だけでなく予防のための技術も進歩していることを保健分野の専門職も把握して、医学知識の更新をする努力が求められる。医療側には社会実装するのは保健分野であることが多いので、わかりやすく伝える工夫を期待したい。日本小児保健協会は、こうした活動の支援に当たるとともに、必要に応じて調査・研究を行い情報発信していく予定である。また、学術集会での教育講演や各種のセミナー、シンポジウムや各委員会が主催する小児保健セミナー、乳幼児健診の研修会、多職種に向けた発達障害の講習会などを通じて、多職種の知識や技術向上、多職種間の相互理解に努め、活動を支援する橋渡しとしての役割を果たしていきたいと考えている。

## 2. これからの小児保健の役割

事が起きてしまった後に関わるのが医療や福祉で、対象が患者さんやそのご家族であるなどはっきりしている。事が起きているので当事者に困り感があるし積極的な関わりを求めている。しかし、保健は疾病の予防や早期発見といった形で、大勢の方々に情報を提供し、注意を向けてもらう必要がある。なかには健康増

- ① 新生児へのマスキング検査
- ② (子ども家庭センター) 伴走型相談支援を活用した子育て支援の推進
- ③ 育てにくさを感じている保護者の子育て支援
- ④ 乳幼児健康診査等の母子保健事業の精度管理や広域的支援の推進
- ⑤ 聴覚障害の早期発見・早期療育に資する体制整備
- ⑥ 3歳児健康診査における視覚検査に屈折検査機器の導入促進
- ⑦ 股関節脱臼・臼蓋形成不全などの疾病の早期発見と支援
- ⑧ 健康診査等において、乳幼児の栄養状態や睡眠時間の確保の指導
- ⑨ 保育所、幼稚園等におけるアレルギー疾患への対応
- ⑩ 医薬品に関する相談体制の充実
- ⑪ 予防接種率を高める
- ⑫ 「早寝早起き 朝ごはん」国民運動や「健やか親子21」の普及啓発
- ⑬ 咀嚼と嚥下機能の発育促進

図 1 乳幼児期における保健施策

- ① 学童期及び思春期の健康課題に関する取組の推進
- ② 生活習慣の形成のための健康教育の推進
- ③ 健全な口腔機能の保持・増進
- ④ 「早寝早起き 朝ごはん」国民運動や「健やか親子21」の普及啓発
- ⑤ 咀嚼と嚥下機能の発育促進
- ⑥ 学校等におけるアレルギー疾患への対応
- ⑦ 妊娠・出産等に関する医学的・科学的に正しい知識の普及・啓発
- ⑧ 思春期の人工妊娠中絶、性感染症問題への対応
- ⑨ 予期せぬ妊娠等により不安を抱える若年妊婦等の支援
- ⑩ こども等に対する性的な暴力の根絶
- ⑪ 学童期及び思春期における心の問題に対応するための専門家を養成
- ⑫ こどもの心の診療ネットワーク事業を推進
- ⑬ こどもの自殺対策を推進
- ⑭ ゲーム等の使用の影響等についての科学的知見の収集
- ⑮ 学校健診での側弯症の早期発見
- ⑯ 障害の特性に応じた療育と幼稚園等での受け入れ促進
- ⑰ 肢体不自由児の、医療型障害児入所施設の支援
- ⑱ 発達障害が疑われるこどもの早期発見、支援策の開発・普及
- ⑲ 障害児通所支援や福祉サービスの専門性向上
- ⑳ 障害のあるこどもの栄養管理に必要な相談体制
- ㉑ 思春期のこころの問題も含むこどもの性と健康の問題に対応

図 2 学童期および思春期における保健施策

進のためとあって、個人のライフスタイルにまで口をはさむかのような情報提供もあると思われる。このようにニーズを感じていない方々に注意を向けってもらうためには、正確でわかりやすい情報提供が求められると考える。根拠に基づいた質の高い情報提供がこれからの小児保健に課せられた役割の一つではないかと考えている。

### 3. オードリー・タン大臣との対談

第 68 回日本小児保健協会学術集会 (宮城雅也会頭)

の特別講演で台湾のオードリー・タン大臣と対談をする機会があった。台湾と那覇、東京 (通訳) の 3 か所を結んでの Web 対談という形で 1 時間にわたって、コロナ禍における保健活動について多大なる示唆をいただいたので記録として残しておきたい。以下、1 問 1 答の形式で記す。

小枝 1: 日本ではいまだに感染症発生の報告が紙への記入で行われていたり、ワクチン接種歴などを一元管理するようなシステムが充分構築されていなかったりと感染症管理に関する IT 化が遅れています。医療

保健分野における情報収集と情報発信について、台湾での取り組みを教えてください。

タン大臣1：台湾では2004年にSARSを経験しており、その時は台湾でも紙で人数を集計していました。保健所の人が大変な作業をしたのも今の日本と同じでした。その後、反省を活かしてICベースの保険証を活用できるように整備を進めていきました。日本でもマイナンバーカードを活用してはどうでしょうか？

小枝2：昨今の新型コロナウイルス感染症拡大により、改めて遠隔医療・オンライン診療が注目され、ニーズも増していると思います。

新型コロナウイルス感染症対策と絡めて医療IT技術の展開を、台湾ではどのように進めておられますか？とくに産学官での連携推進について教えてください。

タン大臣2：行政がもっとも大変な想いをしている人たちから意見を拾い上げて、研究機関がそれを解決するアイデアを出して、民間業者が実現するという分担をして進めています。GVO（ガバメントゼロ）が大きな役割を果たしています。

小枝3：日本は人口では台湾の5倍で、面積は約10倍と規模が大きいのですが、台湾のように医療保健分野のIT化を日本で進める上で留意すべきと思われることを教えてください。

タン大臣3：インターネットを使う現在では、距離は関係がないのです。台湾では5Gの技術を使って離島や山間部などの不便なところから通信を整備しています。すべての人が恩恵を受けることができることの解決にはインターネットの技術が大きな力となります。

小枝4：新型コロナウイルスを含め、ワクチン接種に対してどの国でも一定数反対のご意見を持っている人がいます。その中にはWeb上などの科学的事実のない情報（いわゆるデマ）に基づいて判断してしまっている方もいて、このような方々に正確な情報を伝えることは重要だと思いますが、台湾で工夫しておられることを教えてください。

タン大臣4：Fast Fair Funという3つのFを大切に活動しています。科学的根拠のない情報は恐怖をもたらすため、広がりやすいのです。そこでFun（楽しいこと）を意識して活動しています。“Humor over Rumor”なのだと思います。

小枝5：タン大臣の「誰も置いていかない」という言葉が、私も大好きで、いま日本で人気となっています。

。「誰も置いていかない」ために、タン大臣が実行しておられる具体的な活動を教えてください。

タン大臣5：私たちは選挙権がない若者たちからも意見を集めて、施策に反映したり、アイデアを実現したりしています。台湾のいたるところでも、意見を吸い上げるためにツアーを組んで出かけていくようにしています。

小枝6：タン大臣は解決策が浮かばないときは、たくさん睡眠をとることにしていて、たくさん寝た後には解決策が浮かぶと聞きました。

私も同じく解決策が浮かばないときは、すぐに寝ることにしていますが、寝て起きてもなかなか解決策は浮かびません。どうしたらよいでしょう？

タン大臣6：寝る前に問題点を把握することです。そうしておいて寝ると、起きたときにアイデアが浮かんできます。やってみてください。

小枝7：大臣はコロナ対策ではかわいい犬のポスターを使用していましたし、“Humor over Rumor”とも答えていました。行政院にはデジタルというハード面だけでなくソフトな心理的アプローチをするチームがあるのでしょうか？

タン大臣7：複数のデザイナーをリクルートしました。ポスターだけでなく、伝え方を知っているデザイナーなどでチームを組織しています。

小枝8：デジタル化が進むと誰でも意見を届けられるようになると思いますが、それが施策に反映されたという実感がないと、参加する人が減ってくると思います。行政へ声が届いているという実感が持てる工夫を教えてください。

タン大臣8：選挙権を持たない若者たちの意見を取り上げて、それを施策に反映することを行っています。学校での成績、勉強がよくできることだけを評価するのではなく、こうした意見表明などの行動を高く評価することが参加を促す方法だと思います。

小枝9：日本ではコロナ感染者やその家族、医療従事者に対する誹謗中傷があります。台湾ではそのような事例にどのように対応していますか？

タン大臣9：相手の良いところを探し、それに注目が集まるようにしています。悪いところを探して指摘すると、悪いことをすると注目を集めることになり、もっとひどくなります。良いところを探してそれを広めるようにすると、善い行いが注目されることになってさらに善い行いが増えてきます。

とても穏やかで, にこやかで, スッと近づいていける雰囲気を持った方であり, 彼女のような人がイニシ

アチブを取ると世の中が変わるのかな, と思った次第である。